

街へ、暮らしへ、広がる近鉄ネットワーク

証券コード9041



www.kintetsu.jp

2010年3月期 決算説明会

2010年5月19日

- I. 新経営計画について
- II. 10/3月期決算の概要及び11/3月期計画

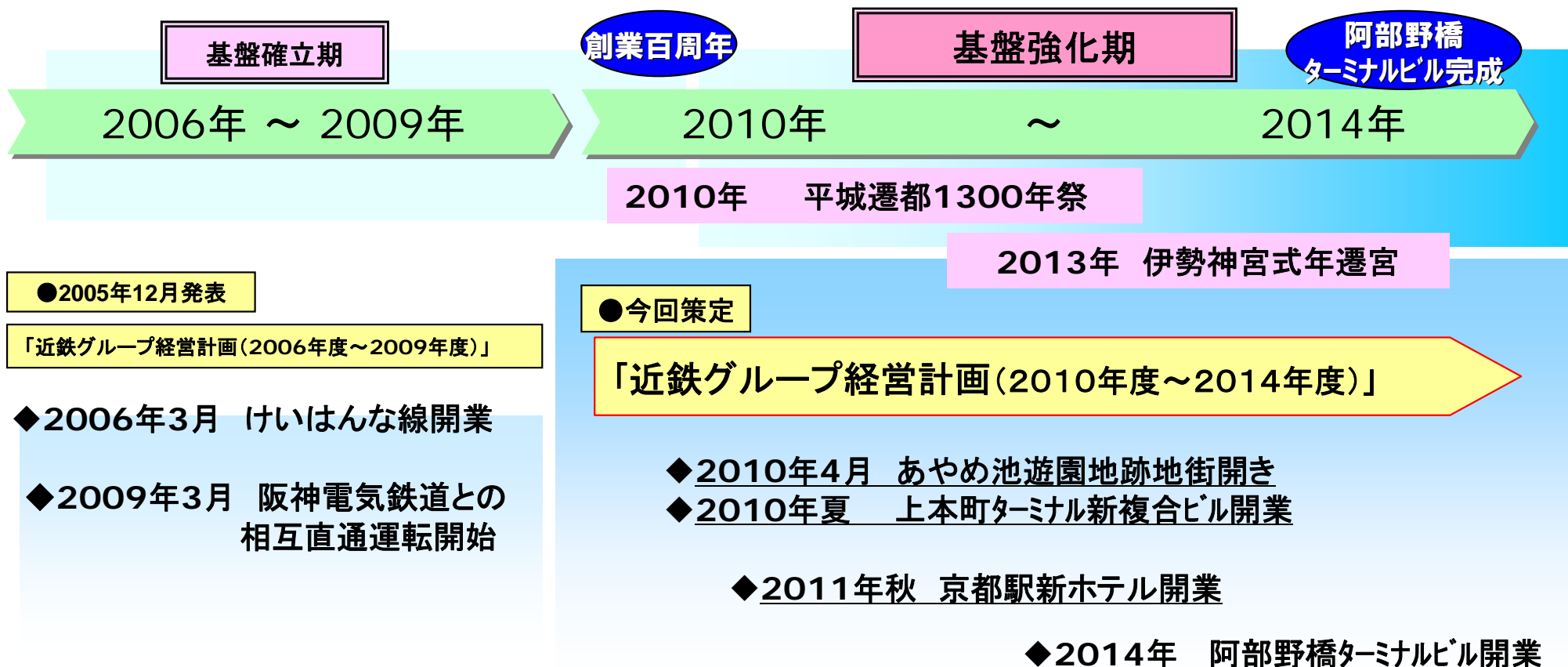


I . 新経営計画について

今回の経営計画の期間と位置付け

本年創業百周年を迎える当社では、成長の礎となる各種プロジェクトを推進してきた。次の段階として、阿部野橋ターミナルビルが完成する2014年春までは、各種プロジェクトを着実に実現すると共に、構造改革を進め、新たな収益基盤の確立に向けた事業創出を図る。

本経営計画の期間は、2010年度から2014年度までとし、「基盤強化期」と位置付ける。



基本方針

【基本方針】

- (Ⅰ) 鉄道の原点である安全の確保と快適な輸送サービスの提供を基本に、2014年度までの間は、三大ターミナルプロジェクトをはじめ、鉄道業を中心に沿線深耕に注力する。
当社百年の歴史の重みと沿線の文化・観光の厚みを踏まえ、グループの総力を挙げた事業展開により沿線の利便性・魅力度向上を図る。
- (Ⅱ) 少子高齢化・人口減少など市場の変化に対応すべく、全事業において適正な利益を確保するために、経済成長期の仕組みを見直して、構造改革を着実に進めると共に、収益基盤の確立に向けた事業創出を図り、新たな成長戦略を描く。
- (Ⅲ) グループ経営については、戦略機能と管理機能を強化し、グループの総合力を高める施策や再編を実施する。

経営数値目標

当面の間、デフレ経済が続くと予想される中、量の拡大より利益の確保を重視し、阿部野橋ターミナルビル完成までの間、現行の配当水準を安定的に維持するために必要な利益と財務体質の健全性を確保する。

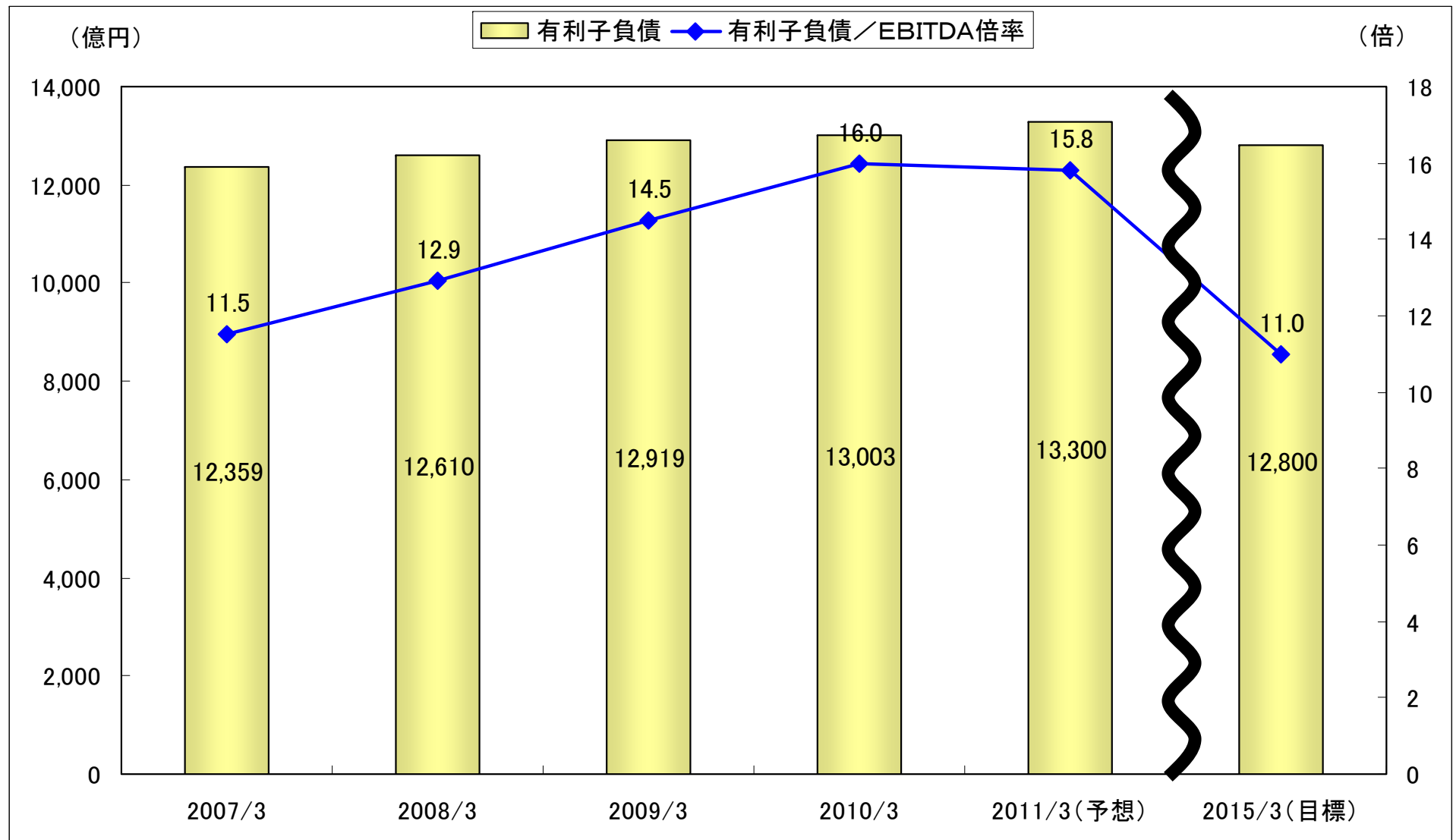
2014年度に、下記の数値目標を目指す。

	2009年度 実績	2010年度 予想		2014年度 目標
連結営業収益	9,607億円	9,700億円	→	1兆1,000億円
連結営業利益	357億円	360億円	→	600億円
連結当期純利益	36億円	110億円	→	200億円
連結有利子負債	1兆3,003億円	1兆3,300億円	→	1兆2,800億円
EBITDA倍率	16.0倍	15.8倍	→	11.0倍

(EBITDA = 営業利益 + 減価償却費)

有利子負債の削減

2011/3月期を有利子負債のピークに、以降、有利子負債の削減と、有利子負債/EBITDA倍率の改善を目指す。



本計画期間中の主要施策 ①(三大ターミナルプロジェクト)

(1)三大ターミナルプロジェクト

◆グループの総合力を活かした阿部野橋・上本町・京都の三大ターミナルの整備。

①阿部野橋ターミナルビル整備

- ・高さ300m、地上60階の日本一の超高層複合ビルを整備
 - ・百貨店、ホテル、オフィス、美術館、展望台を備える
- 【2014年春完成予定】

②上本町ターミナル整備

大阪新歌舞伎座を中心とする複合商業施設(上本町YUFURA)を建設

【2010年夏完成予定】

③京都駅ターミナル整備

- ・宿泊特化型ホテル【2011年秋完成予定】
- ・新ホーム設置【2012年春完工予定】

本計画期間中の主要施策 ②(鉄道事業)

(2) 鉄道事業の主要施策

◆鉄道事業においては、安全の確保と適正な利益の確保を実現すべく、これまでのハード中心の投資を見直し、ソフト面の整備による効率的な運営体制を構築する。

① 抜本的ダイヤ見直し

- ・需要に応じた適正なダイヤの作成

② 組織の再編と運営体制の再構築

- ・上記ダイヤに応じた駅、列車区の運営体制、保守体制の構築

③ 営業政策と営業システムの再構築

- ・特急網、特急サービスをはじめとする特急システムの構築
- ・沿線観光資源の面的な掘り起こしや「観光列車」の導入など、地元と連携した観光強化
- ・「新型観光特急」の導入

本計画期間中の主要施策 ③(その他事業)

(3)その他事業の主要施策

◆不動産事業

- けいはんな線沿線・あやめ池遊園地跡地等の開発
- 保有資産・遊休地の有効活用

◆流通事業

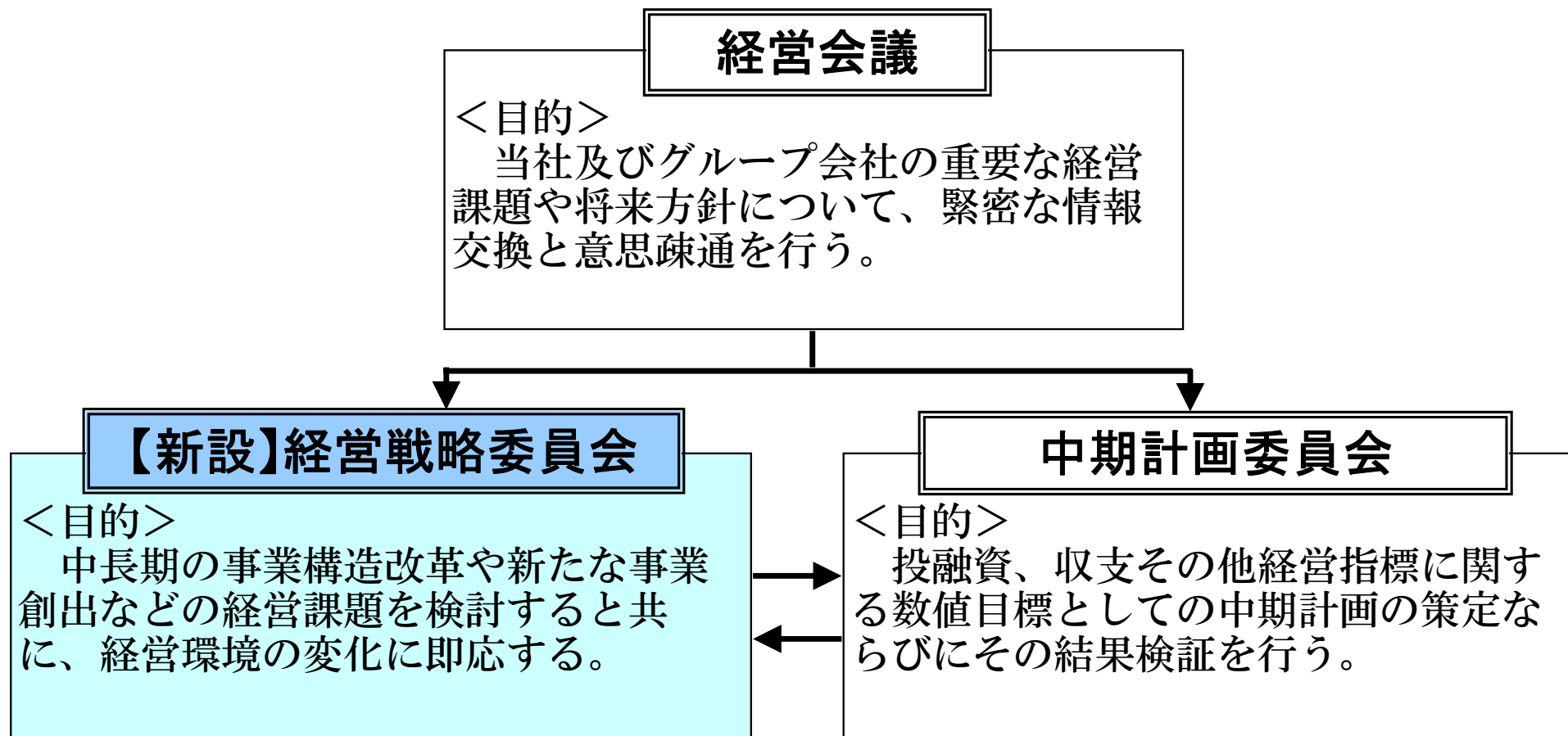
- 百貨店・スーパーの連携によりグループ流通事業の経営基盤を強化
- 駅ナカ事業の効率的な店舗展開
- サービスエリア事業の新規展開

◆ホテル・レジャー事業

- 阿部野橋ターミナルビルや京都駅等の新規ホテル開業
- 既存ホテルのリニューアル等による競争力強化
- 奈良・伊勢志摩地域におけるグループ事業の強化
- 横断的に観光施策を推進する為の組織の一元化

経営推進体制の強化

昨今の激変する経済環境や、少子高齢化・人口減少等の社会構造の変化に柔軟かつ迅速に対応すべく、社長直轄の「経営戦略委員会」を新設し、経営体制の一層の強化と、全事業における抜本的な構造改革を推進すると共に、新たな事業創出に向けた体制を整える。



事業創出の推進

沿線において、近鉄グループの総合力を活かした生活者支援事業を推進し、併せて遊休資産活用事業の検討を進める。

(1)近鉄グループの総合力を活かした生活者支援事業

少子高齢化を迎える沿線の活力を将来にわたり向上させるため、近鉄グループの総合力を発揮し、「衣・食・住」それぞれの場面において、生活者のライフサイクル、ライフスタイルに応じた新たなサービスの展開を図る。

<検討内容>

○シニア・高齢世代向け

(介護付き住宅、老人ホーム等)

○子育て世代向け

(駅前保育所、多様なニーズに応える賃貸住宅等)

○住みやすく、かつ、長く住んでいただける街づくり

(駅を中心とした生活関連機能の集積：医療・健康増進施設等)

(ライフサイクル、多様なライフスタイルに応じた居住環境及び住み替えサポート・リフォーム等サービスの提供)

(2)その他

当社の遊休資産等を有効活用する新たな事業を検討。

グループ経営の強化

グループの総合力を高める施策や再編を実施し、収益向上、財務体質改善など、経営基盤を強化する。

鉄道業を中心とする経営戦略を担当していた「経営企画部」と、グループ事業の経営戦略を担当していた「グループ事業本部」の機能を一体化して、より統括的にグループ戦略機能と管理機能を強化する。

※検討中の主な課題

《業種別課題》

1. 流通事業戦略(近鉄百貨店、近商ストア等)
2. 旅行事業戦略(近畿日本ツーリスト、クラブツーリズム等)
3. 飲食、旅館事業再編

《横断的課題》

4. シニア・高齢世代向けにグループの総合力を活かした事業の検討
5. 鉄道をはじめ、グループの総合力を活かす効率的な施策を実施するための
営業システム構築と新カード発行

《海外事業展開》

6. 海外事業のネットワーク活用方策の検討
(近鉄エクスプレス、近畿車輛、近畿日本ツーリスト、クラブツーリズム、ホテル事業など)

Ⅱ． 10/3月期決算の概要 及び11/3月期計画

2010/3期 決算トピックス

鉄軌道事業

- ◆ 奈良線八戸ノ里・瓢箪山間連続立体交差化工事、車両新造工事、京都駅改良工事などを推進
- ◆ 09/4月 : 新型特急車両「22600系ACE(エース)」を導入開始
- ◆ 09/6月 : ICカード「PiTaPa」に区間指定割引サービスを新たに導入

ホテル・レジャー事業

- ◆ 京都駅直結宿泊特化型ホテル建設工事などを推進
- ◆ 09/12月 : 米国カリフォルニア州に「都ホテルトランス・カリフォルニア」を新規開業

流通事業

- ◆ 09/4月 : 西名阪自動車道香芝サービスエリア(上り線)において「奈良近鉄レストラン」を新規出店
- ◆ 09/9月 : 大和西大寺駅構内ショッピングモール「Time's Place Saidaiji」を開業

不動産事業

- ◆ 上本町ターミナルにおいて複合ビル(「上本町YUFURA」)の建設工事などを推進
- ◆ 10/1月 : 阿部野橋ターミナル超高層複合ビル「タワー館(仮称)」の建設に着手
- ◆ 10/3月 : 四日市駅前複合ビルを開業

グループ再編

- ◆ 09/4月 : 近鉄グループ不動産会社2社が合併

2010/3期 決算トピックス

経営成績

- ◆ 売上高=9,607億円(▲57億円、▲0.6%)
 - 運輸業は鉄軌道部門で景気悪化に伴う消費手控えのほか、高速道路料金休日千円化に伴う長距離輸送の減や上半期の新型インフルエンザ流行の影響等により、旅客収入は減
 - レジャー・サービス業は前年下期からのクラブツーリズム連結化により増収
 - 流通業は百貨店部門の消費低迷や阿倍野店建替に伴う営業面積縮小等により減収
 - 不動産業は賃貸部門で阿部野橋ターミナルビル賃貸面積縮小に伴う賃貸収入の減、販売部門でマンション販売戸数の減により減収

- ◆ 営業利益=357億円(▲69億円、▲16.2%)
 - 運輸業は鉄軌道部門で旅客収入減により減益
 - レジャー・サービス業はクラブツーリズム連結化による増収により増益
 - 流通業は百貨店部門の減収等により減益

- ◆ 経常利益= 173億円(▲54億円、▲24.0%)
投資先の業績回復により、持分法投資損益が改善

- ◆ 当期純利益= 36億円(▲116億円、▲76.0%)
工事負担金等受入額など特別利益154億円、特別退職金など特別損失183億円を計上

設備投資

- ◆ 784億円(+97億円)
鉄道車両(特急車22両)新造、大和西大寺駅構内ショッピングモール「Time's Place Saidaiji」建設、上本町YUFURA建設、都ホテルトランス・カリフォルニア建設、近鉄百貨店阿倍野店全館リフレッシュオープン、流動化していた賃貸ビル「名古屋近鉄ビル」および「ル・シエル学園前」取得 等

2010/3期 業績の概要(連結)

(億円:%)	2009/3期		2010/3期		前期比増減		09/11 時点見通
		構成比		構成比	金額	率(%)	
売上高	9,664	100.0	9,607	100.0	▲ 57	▲ 0.6	9,800
営業利益	426	4.4	357	3.7	▲ 69	▲ 16.2	350
経常利益	228	2.4	173	1.8	▲ 54	▲ 24.0	170
特別利益	107		154		46	43.7	
特別損失	65		183		117	178.6	
当期純利益	153	1.6	36	0.4	▲ 116	▲ 76.0	110

1株当たり純利益

9円02銭

2円16銭

(注)連結子会社数 49社(前期末比1社減)

持分法適用会社数 7社(前期末比増減なし)

(億円)	2009/3期	2010/3期	比較増減額
設備投資	687	784	97
減価償却費	458	453	▲ 4

2010/3期 セグメント別実績(連結)

(億円:%)	2009/3期	2010/3期	前期比増減	
	売上高	売上高		
	営業利益 (営業利益率)	営業利益 (営業利益率)	金額	率(%)
運 輸 業	2,236	2,129	▲ 106	▲ 4.8
	323 (14.5)	287 (13.5)	▲ 36	▲ 11.3
レジャー・サービス業	1,952	2,529	576	29.6
	▲ 20 (▲1.0)	▲ 8 (▲0.3)	11	58.2
流 通 業	4,563	4,048	▲ 515	▲ 11.3
	6 (0.2)	▲ 10 (▲0.3)	▲ 17	—
不 動 産 業	1,111	1,052	▲ 59	▲ 5.3
	98 (8.9)	73 (7.0)	▲ 25	▲ 25.3
そ の 他 の 事 業	515	485	▲ 29	▲ 5.8
	14 (2.8)	13 (2.7)	▲ 1	▲ 8.2
合 計	9,664	9,607	▲ 57	▲ 0.6
	426 (4.4)	357 (3.7)	▲ 69	▲ 16.2

売上高の主な増減要因

- 運輸業のうち鉄道旅客収入の減 -66
- レジャー・サービス業で09/3下期よりクラブツーリズムを新規連結 +672、ホテル部門の減収 -45
- 流通業のうち百貨店部門の減収 -491

2010/3期 業績の概要(単体)

(億円:%)	2009/3期		2010/3期		前期比増減	
		構成比		構成比	金額	率(%)
営業収益	2,813	100.0	2,690	100.0	▲ 122	▲ 4.4
鉄軌道事業	1,654		1,584		▲ 69	▲ 4.2
付帯事業	1,158		1,106		▲ 52	▲ 4.6
営業利益	387	13.8	322	12.0	▲ 64	▲ 16.7
鉄軌道事業	310		269		▲ 41	▲ 13.2
付帯事業	76		52		▲ 23	▲ 31.2
経常利益	215	7.6	162	6.0	▲ 52	▲ 24.5
特別利益	90		143		53	58.7
特別損失	53		114		61	116.8
当期純利益	162	5.8	113	4.2	▲ 49	▲ 30.3

2010/3期 貸借対照表の主な増減(連結)

(億円:%)	2009/3期		2010/3期		比較 増減額
		構成比		構成比	
流動資産	3,566	19.2	3,449	18.6	▲ 117
固定資産	15,002	80.8	15,126	81.4	123
うち事業用資産	13,543		13,738		195
資産合計	18,575	100.0	18,582	100.0	6
流動負債	6,293	33.9	6,673	35.9	380
固定負債	10,426	56.1	10,204	54.9	▲221
負債合計	16,719	90.0	16,878	90.8	158
うち借入金・社債	12,919		13,003		83
純資産合計	1,856	10.0	1,704	9.2	▲151
うち利益剰余金	▲ 61		▲ 126		▲ 64
負債、純資産合計	18,575	100.0	18,582	100.0	6

《主な増減要因》

資産

- ・設備投資 +784
- ・減価償却・除却・減損 -532
- ・固定資産売却 -43
- ・のれん償却 -29
- ・繰延税金資産の減 -87
- ・たな卸資産の減 -86
(うち販売土地建物の減 -56)

負債

- ・借入金・社債の増 +83
- ・土地再評価に係る繰延税金負債の増 +82

	2009/3期	2010/3期
一株当たり純資産(円)	103.92	96.85
自己資本比率(%)	9.5	8.9

2010/3期 キャッシュフローの状況(連結)

(億円)	2009/3期	2010/3期	比較増減額
営業活動によるキャッシュフロー	475	589	113
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 437	▲ 504	▲ 66
財務活動によるキャッシュフロー	1	▲ 76	▲ 78
現金及び現金同等物の期末残高	291	297	6

《キャッシュフローの当期の状況と対前年同期比増減》

営業活動

- ◆税金等調整前当期純利益は減少したものの、退職給付費用などの非資金費用の増のほか、たな卸資産の売却促進や仕入債務の支払減等により全体としては前期比113億円増となる589億円の収入

投資活動

- ◆固定資産取得に673億円(前期比89億円増)を支出し、匿名組合出資配当金の受取を差引き、全体としては前期比66億円増となる504億円を支出

財務活動

- ◆フリー・キャッシュフローの増加により長期借入および社債発行による資金調達額が減少し、収入超過であった前期に比し78億円の支出増となる76億円を支出

2011/3期 通期計画(連結)

(億円:%)	2010/3期 実績		2011/3期 計画		前期比増減	
		構成比		構成比	金額	率(%)
売上高	9,607	100.0	9,700	100.0	92	1.0
営業利益	357	3.7	360	3.7	2	0.7
経常利益	173	1.8	190	2.0	16	9.3
当期純利益	36	0.4	110	1.1	73	199.6

(億円)	2010/3期 実績	2011/3期 計画	比較増減額
設備投資	784	750	▲ 34
運輸業	450	330	▲ 120
レジャー・サービス業	64	56	▲ 8
流通業	98	50	▲ 48
不動産業	156	300	143
減価償却費	453	480	26
借入金・社債残高	13,003	13,300	296

2011/3期 セグメント別計画(連結)

	2010/3期 実績	2011/3期 計画	前期比増減	
	売上高	売上高		
	(億円:%)	営業利益 (営業利益率)	営業利益 (営業利益率)	金額
運 輸 業	2,129	2,100	▲ 29	▲ 1.4
	287 (13.5)	255 (12.1)	▲ 32	▲ 11.3
レジャー・サービス業	2,529	2,560	30	1.2
	▲ 8 (▲0.3)	1 (0.0)	9	—
流 通 業	4,048	3,940	▲ 108	▲ 2.7
	▲ 10 (▲0.3)	22 (0.6)	32	—
不 動 産 業	1,052	1,270	217	20.7
	73 (7.0)	71 (5.6)	▲ 2	▲ 4.0
そ の 他 の 事 業	485	420	▲ 65	▲ 13.5
	13 (2.7)	7 (1.7)	▲ 6	▲ 47.4
合 計	9,607	9,700	92	1.0
	357 (3.7)	360 (3.7)	2	0.7

2011/3期 通期計画(単体)

(億円:%)	2010/3期 実績		2011/3期 計画		前期比増減	
		構成比		構成比	金額	率(%)
営業収益	2,690	100.0	2,690	100.0	▲ 0	▲ 0.0
鉄軌道事業	1,584		1,560		▲ 24	▲ 1.5
付帯事業	1,106		1,130		23	2.2
営業利益	322	12.0	300	11.2	▲ 22	▲ 7.0
鉄軌道事業	269		240		▲ 29	▲ 11.1
付帯事業	52		60		7	14.1
経常利益	162	6.0	140	5.2	▲ 22	▲ 13.9
当期純利益	113	4.2	100	3.7	▲ 13	▲ 11.9

(億円)	2010/3期 実績	2011/3期 計画	比較増減額
設備投資(うち鉄道)	603 (412)	630 (300)	26 (▲ 112)
減価償却費	289	307	17
借入金・社債残高	11,471	11,800	328

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、計画数値と異なる可能性があることにご留意ください。又、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。



お問い合わせ先

経理部

Tel:06-6775-3465

Fax:06-6775-3691

Mail:ir-info@rw.kintetsu.co.jp